



第6学年1組 国語科学習指導案

昭和58年10月25日(火) 第3校時

授業者 川内二三子

1 題材 やまなし(光村6下)

2 児童について

- (1) 男子12名、女子15名、計27名。
- (2) 子供達の感想の中には、「やまなし」は、今まで読んだ物語とちがってよくわからないというのが多い。

「詩のような書き方がしてある」、「不思議な表現がいっぱいだ」、「今まで勉強してきた作品とちがう」などという感想が多い。

3 題材について

- (1) 宮沢賢治の作品には、「分かる」作品と「分からない」作品があるといわれている。「やまなし」は「分からない」作品にはいる。谷川の底を活写することで自然の美しさを教えながら、そこに人生というものの象徴を見ている童話なのだが、1回読んだだけでは理解しにくい作品である。しかし、何度も読んでいくうちに何となく分かってくる。読めば読むほどひかれていく作品なのである。扱えば扱うほど宮沢賢治のファンタジーの世界に誘い込まれてしまうから不思議である。
- (2) ひとつひとつの言葉を大事にしながら、「2枚の青いげん灯」の世界を豊かにイメージさせ、文学の味わいをいっそう深めさせるのに適切な題材である。

4 指導について

- (1) 想像を誘う表現、擬声語、擬態語、比喩などは、何度も繰り返し読ませ、朗読をさせながら、その表現のよさを味わわせたい。また、あまり説明したり解説したりしないで、各自に自由に想像させたい。
- (2) すぐれた表現に目をつけ、全体をとらえていく学習をすすめていきたい。

5 言語事項について

- (1) 賢治の造語、あるいはそれに近い言葉として、クラムボン、イサド、かばの花などがある。これらは、辞書的な意味でなく、その言葉の持つ響き、前後の関係から自由に想像させたい。
- (2) 賢治のy p く使用する理科的用語、金雲母、金剛石なども語釈だけでは、味気ないので、文章全体の流れ、文脈の中で理解させたい。
- (3) 色彩語、比喩、擬声語、擬態語などに注意し、抑揚、強弱に気をつけて、それ



ぞれの情景を朗読させたい。

#### 6 指導計画 13時間

- (1) 全文を読み、感想を書く。
- (2) 感想をもとに話し合い、読みの目当てを決め、学習計画を立てる。
- (3) 問題作り。個人で作る。グループで話し合う。
- (4) 新出漢字の練習。言葉調べをする。
- (5) ひとり調べをする。

作者は、クラムボンという言葉は何の意味があって、どんなことを想像してつくったか。

初めの会話は、どういう意味があるのか。また、なぜ、こんな表現があるのか。

- (6) 5月の場面を読み、ひとり調べをする。

5月をかにの親子と川の中とに分けて考えてみよう。

情景について、文章についてどうか。

この学習を進めていく上についてどうか。

疑問はないか。

考えたことについて。

読み進めていくうちにどうだったか。

希望すること。

- (7) 5月のひとり調べを発表する。
- (8) 12月の場面を読み、ひとり調べをする。
- (9) 12月のひとり調べを発表する。
- (10) 2つの場面对比して読み、ひとり調べする。

5月と12月では、感じがどうちがい、作者は作者は、そこで何が言いた買ったのか。

「やまなし」と「かわせみ」のつ意味についてもっと深く考えてみよう。

「やまなし」という題について。作者は、なぜ、「やまなし」という題をつけたのだろうか。

- (11) 2つの場面对比して読み、主題について考える。(本時11/13)
- (12) 「やまなしを学習して」を書く。
- (13) まとめ。評価。

#### 7 本時の目標

- (1) 5月は、殺し殺される「現実」の厳しい自然であり、12月は静かで平和な「理想」の世界であることをとらえる。
- (2) 「やまなし」という題に作者の平和への願いがこめられていることを読み取り、



作品の主題に迫る読みをすることができる。

#### 目標行動

- ( 1 ) 情景を思い浮かべながら朗読することができる。
- ( 2 ) 5月と12月の場面は、どちらがうのかを発表することができる。
- ( 3 ) 友達の発表を聞いてよいところをメモすることができる。
- ( 4 ) 作者は、何を言いたいのかを小集団で話し合うことができる。
- ( 5 ) 「今日の学習で」を5分間で200字書くことができる。



8 学習指導過程

過 程	教師の働きかけ	児童の活動	指 導 上 の 留 意 点
目あてをもつ	○5月と12月とを比べて、作者は何が言いたいのかを考えよう。	○学習の目あてをつかむ。	○ひとりひとりに目あてをつかませる。
朗読する	○情景を思い浮かべながら読もう。	○色彩語、擬声語、擬態語などに注意して読む	○聞き手にも場面の情景が伝わるように抑揚、強弱に気をつけて朗読させたい。
話し合う	○5月と12月の場面の感じは、どうちがうのだろう。 ・Aの発表 ・〇〇さんの聞いて ・B, C, Dの発表	○5月は、活動的で激しい生存競争の世界であり、12月は、いいにおいに満ちあふれる静かな理想の世界であることを発表する。 ○主題について小グループで話し合い、発表する。	○作者が12月を理想の世界としていることに気づかせたい。
書く	○「今日の学習で」を書こう。	○分かったこと、友達の話に来て教えられたこと、直していききたいことなどを書き発表する。	○小グループでまとめるのではなく、平和の大切さを教えたのではないかということに気づかせる。
次時への発展	○「やまなしを学習して」を書こう。	○今までの学習をふりかえり、書く。	○本時の学習をふりかえらせ、次時へ生かさせたい。
			○ひとり調べや発表、朗読などについて書かせたい。



9 反省

10 御高評